

2024 年度 第 1 回教育課程連携協議会議事録

日 時：2024 年 10 月 9 日（水）14：00～15：15
形 式：対面会議

総委員：8 名

（長丸昌功、宮本郁夫、本昌康、奥野善徳、木下孝治、岡内祐一郎、名古屋功、荒牧裕一）

出席者：8 名

（内 訳）

本人出席：4 名（奥野善徳、岡内祐一郎、名古屋功、荒牧裕一）

代理出席：4 名（長丸昌功 代理：須賀 慎二郎、宮本 郁夫 代理：中道 史郎、
本 昌康 代理：加藤 高聖、木下 孝治 代理：越野 敦史）

欠 席：0 名

書面表決者：0 名

陪 席：宇都宮博、近藤昌朗、事務局

議 長：名古屋功（学部長）

【教育課程連携協議会次第】

1. 開会（学部長 名古）

- ・学部長 名古より開会挨拶を行った。

2. 学長挨拶（学長 岡内）

- ・9 月 26 日（木）に実施された文部科学省履行状況実地調査における「企業インタビュー」協力御礼と報告、1 期生の就職状況報告がなされた。
- ・新カリキュラムなど、教育内容への忌憚ない意見・要望などを頂きたい旨の説明がなされた。

3. 委員の紹介

- ・昨年度からの委員交代、新任に伴い自己紹介を行った。

4. 報告事項（学長 岡内）別紙資料配布

（1）2024 年度第 1 期 臨地実務実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについて

- ・臨地実務実習委員長を務める岡内学長より、専門職大学の中核的科目「臨地実習」に関して、以下の報告がなされた。

1. 2024 年度第 1 期臨地実習の終了報告。

2. 今期行った取り組みについて、大きく3つの事項を報告。

①臨地実習先の新規開拓

- ・新たに実習受入企業として外食企業その他、食品メーカー・小売店・ホテル企業に協力いただき、計14社より受入、13社にて実習を行った。

②臨地実習内容の再検討

- ・学生のギャップ・企業側への希望を整理し、実習内容計画の見直しを行った。実例資料として、イオンイーハート様での実習計画表を基に説明がなされた。

③臨地実習のスケジュール化

- ・実習後体験報告会の実施などのスケジュール化を行った。
- ・臨地実習受入企業としての気づきなど、各委員より以下の通り意見があった。

発言者	内 容
加藤委員	初年度から受入を行っている。初年度は専門学校と同じような実習になってしまったが、年々ブラッシュアップしている。ただ大枠はあるが、どこまでやったらいいか正直迷いはある。イオンイーハート様の計画表を参考にして、どこまで深く指導すべきかを大学と調整していきたい。
越野委員	企業として教育の仕組みを構築している最中。実習を通してこちらも学びたい。今後は大学・学院のコラボレーションを行いたい。
奥野委員	店長マネジメントの教育について何を行うと良いか、人事・現場責任者と議論しながら作成しスタートした。現場ではOFJTで指導する機会がなかったので、実習Ⅱに関しては企業側での準備が必要になったがマニュアルの整備など抜けている箇所が分かるようになった。人材育成プログラムと実習がリンクし、社内でも活用できるようになった。
須賀委員	実習Ⅱではどのような指導をすると良いか正直不安もあるが、イオンイーハート様の資料を見て店舗マネジメントについて学ぶと良いということが見えてきた。
中道委員	名の通った企業での実習は学生にも良い影響があるのではと感じている。 ・企業の決定方法に関する質問について、学長より学生の希望を受け、企業との調整を行ったとの回答があった。

- ・名古屋学部長からは先日の文部科学省実地調査の講評も踏まえ、企業間の横の連携

を深め、より充実した実習にしていきたいとの説明がなされた。

- ・岡内学長からは、臨地実習はインターンとは異なり、企業との協力無しでは構築できないプログラムであり、実習評価がもらえると学生にも自信がつくとの意見があった。また、今年度の実習Ⅲの内容として、イオンリテールへの店舗立地提案、SU-BEE でインバウンドに関する新規事業提案を行ったとの報告があった。

5. 審議事項（別紙スライド参照）

新カリキュラムについて

- ・今後の新カリキュラム概要について、宇都宮副学長より以下の説明がなされた。

①改編の方向性について

- ・認可時のカリキュラムから、最新の知識を反映できるカリキュラムへ見直しを行う。ポイントとしては大きく以下の5つが挙げられる。
 - （1）大量調理、衛生管理の基礎を習得するための調理師免許取得
 - （2）経済・経営系から食品・製造・管理系へのシフト
 - （3）3専攻を設け、就職を保証
 - （4）コロナ禍・災害の影響を踏まえ、より社会の変化に対応できる実学志向
 - （5）授業回数を変更し、夏季休業を確保

②特徴について

- ・業界・団体からの意見を踏まえて「今」を踏まえたカリキュラムへと見直す。

- ・上記の説明を踏まえ、まず名古屋学部長より本学について各委員へ意見を求め、下記の通り質問・意見が上げられた。

発言者	内 容
中道委員	・県外・県内の人数比について質問があり、近藤事務局長より 8 割石川、残り 1 割程度が富山・福井、1 割未満は北陸 3 県外であるとの回答があった。 ・募集戦略について質問があり、近藤事務局長より全国から集める努力をしている旨説明があり、SNS 等活用しているが、どう認知を上げるか文部科学省からも指摘があった旨報告がなされ、まだ就職実績がないのも一因かもしれないとの意見が述べられた。 ・その他、金城大学、金工大など、白山市と大学協働でゼミナール活動制度について説明があり、岡内学長より柿の協働研究について再度進めたいとの回答があった。

	岡内学長からのイオンとの商品開発打ち合わせがスタートし、白山市も含めて取り組みたいとの意見について、単独でも実施可能であり、ぜひ提案いただきたいとの回答があった。議会でも食マネ大とのつながりが見えないとの意見があった。
加藤委員	大学で学んだことが現場と紐づいていないと学生から聞く。話を聞くと理解できるが、そこが紐づくると即戦力になれるのでは。

- ・各委員からの意見を受け、宇都宮副学長からは各シラバスの「横の連携」や、「分かる」と「出来る」の違いについて学生が認識できるようにしたいとの説明がなされた。また、名古屋学部長からは教員が臨地実習について理解を深め、授業でも生かせるようにしたいとの回答がなされた。

- ・名古屋学部長よりカリキュラムについて各委員へ意見を求め、下記の通り質問・意見が上げられた。

発言者	内 容
越野委員	将来の幹部候補として大卒を採用。食に関する専門的な知識・技術を身に付けた即戦力が欲しい。M&A、財務知識、資金調達など起業に関するカリキュラムがあると良いのでは。
奥野委員	全国区より募集するなら、将来の成功イメージ・ビジョンがあると良い。「これが強い！」というイメージを絞ったほうがいいのでは。 ・3専攻のイメージについて質問があり、宇都宮副学長より家業を営んでいる跡継ぎとしての高校生や、製菓・調理に関心があり独立したい学生をイメージしているとの回答があった。 また13回授業への変更により臨地実習開始時期について、8月の受入が厳しい面もある。閑散期9月・10月の受入にしてもらえると助かる。春は3月・5月を外して6月くらい…。異動や決算の関係があるので2月も難しい可能性がある。 これを受け、宇都宮副学長からは、学生からの意見も踏まえ、日数を多く確保できるように変更との補足説明がなされた。

6. 閉会

- ・名古屋学部長より、各委員からの意見を踏まえ、今後臨地実習や新カリキュラムの精査を進めるとの説明がなされた。